

Ⅱ 事業の概要（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

令和元年度の事業実施に当っては、市場の金利低下によって基金の利息収入確保が厳しくなっていることから、健全な運営のための収支均衡や公益法人としての収支相償に配慮しつつ、公益事業の安定的な継続に努めるよう取り組んだ。

漁業振興公害対策事業では、県内各地の沿岸漁業の振興を支援するとともに水産基盤施設の改善や漁村の活性化が図れる支援等を行った。

栽培漁業推進事業では、県が策定した第7次栽培基本計画に基づき水産資源の維持増大のため、種苗受入尾数等の事業規模の維持に努めるとともに、種苗生産機関、漁業者団体、行政機関等との連携を図り、事業を実施した。しかし、本年は台風15号、19号などの大型台風が本県に接近したため、マダイ中間育成施設に大きな被害が発生した。

基金の運用においては、令和元年度当初より基金組換えにより漁業振興基金は10億16百万円、栽培基金は18億6千8百万円となっているが、平成30年に策定した基金の10年運用計画に沿って運用を行った。栽培基金では収入を確保するため、計画どおり4月に1億円の債券を売却したが、売却当時20年の債券金利が低く、暫く債券購入を控えることになった。しかし、その後も金利の低迷が続き、令和元年12月末には、当基金として初めて20年債の債券購入を断念し、30年の国債を購入した。

1 漁業振興公害対策事業

漁業振興基金基本財産運用収入によって、事業費（助成額）11,346千円で、沿岸漁業振興に係る次の事業を実施した。

実施事業一覧

事業名	地域振興事業	広域振興事業
1 漁業振興対策事業 (10,116千円)	<ul style="list-style-type: none"> ・種苗放流事業 ・漁業施設整備事業 伊豆漁協等 11 件 (9,346千円) ・漁港関連整備事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要魚種増殖対策事業 県桜えび組合 (300千円) ・磯焼け対策事業 磯焼け対策協 (200千円) ・漁業開発調査指導事業 県漁連 (270千円) ・種苗放流事業
2 漁業公害対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・漁場監視対策事業 ・公害対策関連事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・公害対策等
3 漁業環境保全対策事業 (50千円)	<ul style="list-style-type: none"> ・海底清掃事業 ・障害物除去事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域的海岸・海中清掃事業 浜名湖をきれいにする会 (50千円) ・地先漁場保全対策事業
4 教育広報事業 (1,180千円)		<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者等育成事業 県漁連 (1,005千円) ・広報事業 県漁連 (175千円)
合計 11,346千円	9,346千円	2,000千円

2 栽培漁業推進事業

第7次基本計画に基づき、栽培漁業基金基本財産運用収入、県補助金、漁業者及び市・町の負担金等を財源とした当初事業予算 51,924 千円で、指定法人が行なう「放流効果実証事業」としてマダイ・ヒラメの中間育成・放流事業を行った。

放流効果実証事業のうちマダイ放流事業は、伊豆、中部、榛南の3地域でそれぞれ地域栽培漁業推進協議会を設置し、資源増大推進普及事業（補助金事業）及び地域栽培推進事業（負担金事業）として実施した。二つの予算事業は一体的に実施し、効率的な事業実施に努めた。本年の静岡県温水利用研究センター（本所、沼津分場）のマダイ種苗生産については、本所の生産が不調であったが、沼津分場の生産が好調であったため、3地域への計160万尾の種苗供給計画は達成された。榛南地域の7.5万尾以外は、全て沼津分場より供給された。中間育成については、伊豆・中部地域は極めて順調に行われ、放流は2年連続で計画以上の放流結果となったが、榛南地域については、時化及び育成場環境変化等の影響により中間育成の歩留りが悪く、計画を下回る放流となったが、県全体での放流は106万尾、計画の101.0%となった。

放流効果実証事業のうちヒラメ放流事業は、榛南地域においては地域栽培漁業推進協議会を設置し、資源増大推進普及事業（補助金事業）及び地域栽培推進事業（負担金事業）として実施し、沼津地域においては漁業者・市の負担金及び栽培漁業基金基本財産運用収入を財源として漁業振興基金から地元の沼津市漁業協同組合青壮年部連絡協議会へ委託し実施した。本年のヒラメの種苗生産は不調で、県全体計画の56.3%の種苗供給となった。榛南の種苗供給は、計画の50.0%、放流数は、計画の50.2%となり、沼津は、中間育成は比較的順調で、放流は計画の94.5%の結果となり、県全体での放流は17.8万尾、計画の55.7%にとどまる結果となった。

なお、平成23年の東日本大震災に関連した浜岡原発の運転停止の影響によって、静岡県温水利用研究センターではそれ以前と同様の温排水等の使用は困難になっているが、国・県・電力事業者等の努力によって温水ボイラーや海水供給ポンプ等の整備・運転等が継続されてきている。令和元年度も県・電力事業者等の努力によって前年度までと同様の種苗生産体制が維持された。

(1) 放流効果実証事業

ア マダイ放流事業

(ア) 伊豆地域

伊豆地域については、静岡県温水利用研究センター沼津分場からマダイ種苗を

計画どおり 90 万尾が供給された。当地域の中間育成の歩留りは 2 年連続計画を上回る結果となり、放流は計画の 115%、681 千尾となった。

また、沼津市久料幼稚仔保育場における放流後の減耗防止と定着率向上のための給餌と施設管理及び集魚状況調査では、久料沖の幼稚仔保育場の中でも岸寄りの海域とし、地元青壮年部等が設置した粗朶礁による滞留効果が認められた。

(イ) 中部地域

中部地域については、静岡県温水利用研究センター本所の生産が当初不調のため、沼津分場より計画どおりのマダイ種苗 20 万尾が供給された。中部地域の放流尾数は合計 139 千尾となり、計画の 131 千尾の 106%となった。

(ウ) 榛南地域

榛南地域については、温水センター沼津分場から 425 千尾、本所からマダイ種苗 75 千尾、計 500 千尾を計画どおり供給された。しかし、中間育成は台風等による要因で、歩留りが悪く、放流は計画の 73.4%に止まった。

表 事業別・地域別マダイ中間育成・放流結果一覧

地域別・中間育成・放流結果（資源増大推進普及事業、地域栽培推進事業の合計）

対象海域	伊豆				中部	榛南	合計
	網代	田子	内浦	計			
中間育成場					小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	405	225	270	900	200	500	1,600
沖出し時全長(mm)	26	24	28	—	36	32	—
放流尾数(千尾)	305.4 (266)	189.6 (148)	185.5 (177)	680.5 (591)	138.9 (131)	240.7 (328)	1,060.1 (1,050)
放流時体長(mm)	70	64	76	—	68	67	—
実施時期	7～8月						—

事業別・中間育成・放流結果（資源増大推進普及事業）

対象海域	伊豆				中部	榛南	合計
	網代	田子	内浦	計			
中間育成場					小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	187.5	97.5	165.0	450.0	—	350	800.0
沖出し時全長(mm)	26	24	28	—	—	32	—
放流尾数(千尾) (計画放流数)	141.4 (123)	82.2 (64)	113.4 (108)	337.0 (295)	—	182.3 (230)	519.3 (525)
放流時体長(mm)	70	64	76	—	—	67	—
実施時期	7～8月						—

事業別・中間育成・放流結果（地域栽培推進事業）

対象海域	伊豆				中部	榛南	合計
	網代	田子	内浦	計			
中間育成場					小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	217.5	127.5	105	450.0	200.0	150.0	800.0
沖出し時全長(mm)	26	24	28	—	36	32	—
放流尾数(千尾)	164.0	107.4	72.1	343.5	138.9	58.4	540.8
(計画放流数)	(143)	(84)	(69)	(296)	(131)	(98)	(525)
放流時体長(mm)	70	64	76	—	68	67	—
実施時期	6～8月						

イ ヒラメ放流事業

(ア) 榛南地域

榛南地域では、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおりヒラメ種苗 21 万尾を受入れた。本年は、飼育が順調に行われ、大きな疾病による減耗も無く、榛南地域の放流尾数は合計 140.5 千尾となり、計画の 280 千尾の 50.2%になった。

(イ) 沼津地域

沼津地域では、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおりヒラメ種苗 6 万尾を受入れた。本年の中間育成の歩留りは、ほぼ目標値となり、沼津地域の放流尾数は合計 37.8 千尾で、計画の 40 千尾の 95%となった。

表 事業別・地域別ヒラメ中間育成・放流結果一覧

地域別事業別・中間育成・放流結果

対象海域	榛南			沼津市	合計
	資源増大推進普及事業	地域栽培推進事業	計		
事業名				—	—
中間育成場	温水センター			内浦	—
中間育成尾数(千尾)	10	200	210	60	270
受入れ時全長(mm)	30	38	—	45	—
放流尾数(千尾)	7	133.5	140.5	37.8	178.3
(計画放流数)	(147)	(133)	(280)	(40)	(320)
放流時体長(mm)	67～72	60～97	—	49,68	—
実施時期	4～7月			4～5月	—